

NTT グループカップ 静岡県ユース U12 サッカー大会からの考察

報告者：石井知幸

- 視察日時：H27年2月7日（土） 8日（日）
- 視察試合：3回戦4試合 準々決勝2試合 決勝
- 視察場所：都田 G エコパスタジアム
- 試合形式：11人制 ピッチ50m×80m

□攻撃時のポジショニング（ボール保持者との距離）

成果・・・ボールが動くたびに、ボール保持者のサポートに入り、ショートパスでテンポよくボールを運んでいる時のサポートの距離は、保持者がインサイドで確実にボールをつなげる距離感であり（パスの距離が延びれば精度は落ちる）また、1タッチプレーを繰り返せる距離でもある。観戦試合のなかには、成功確率の高いショートパスでボールを運び、1タッチプレーでスピードとリズムの変化を生み出すプレーがでていた。

課題・・・ビハインドの試合展開では、「攻めたい」の意識が強すぎてか、前線の選手や、サイドの選手が張りっぱなしのポジションをとり、選手間の距離が広くなる傾向が多かった。（結果、距離のあるパスを多用しパスの精度が低くなり、立ち止まったプレーで相手のDFにつかまり易い）攻撃では、「幅」と「深さ」をつくる動きは大切だが、ボール保持者のボールの持ち方や相手のプレッシャーによって（ボール保持者の状況）ボール保持者との距離、角度を動きながら変え「幅」と「深さ」「ボール保持者との距離」を意識したポジション取りをする必要がある。

□ボールへのプレス（負けたくない強い気持ち）

6年生にとっては、最後の大会でトーナメント方式ということもあり、相手ボールやルーズボールに対して、激しくプレッシャーをかけ、「ボールを奪いたい」「負けたくない」という、気持ちが伝わってきた。大会時だけでなく、日常からサッカーの本質を意識し、プレーの質にこだわりたい。

□指導者の指示と選手の目指すもの（方向性は同じか？）

今大会に限ったことではないが、指導者の指示と選手が TRY しようとするプレーに違いがあることがある。サッカーの試合では、個人の判断（選手同志、選手と監督）に違いがあることは当然のことだが、選手が、質の高いプレー（丁寧なパスでのビルドアップ）を選択しようとしている局面で、ベンチから判断の伴わないプレーの指示が出され、選手の TRY する場を奪ってしまっているチームもあった。指導者は、選手のミスや試合の結果を受け止め、選手に TRY する場を提供しなければならないと考える。